止の五に云く、「花厳に云く、心は工なる画師の如く種々の五陰を造る。一切世間の中に心より造らざること莫し。種々五陰とは前の十法界の五陰の如きなり」と。又云く、「又十種の五陰、一々に各十法を具す。謂く如是相・性・体・力・作・因・縁・果・報・本末究竟等」と文。又云く、「夫れ一心に十法界を具す。一法界に又十法界を具すれば百法界なり。一界に三十種の世間を具すれば、百法界に即ち三千種の世間を具す。此の三千、一念の心に在り」と文。弘の五に云く、「故に大師、覚意三昧・観心食法及び誦経法・小止観等の諸の心観の文に、但自他等の観を以て三仮を推せり。並に未だ一念三千具足を云わず。乃至観心論の中に、亦只三十六の問を以て四心を責むれども、亦一念三千に渉らず。唯四念処の中に略して観心の十界を云うのみ。故に止観に正しく観法を明かすに至りて、並に三千を以て指南と為せり。乃ち是れ終窮究竟の極説なり。故に序の中に説己心中所行法門と云う。良に以有るなり。請う尋ね読まん者、心に異縁無かれ」と。止の五に云く、「此の十重の観法は横竪に収束し微妙精巧なり。初は則ち境の真偽を簡び、中は則ち正助相添い、後は則ち安忍無著なり。意円かに法巧みに、該括周備して初心に規矩し、行者を将送して彼の薩雲に到らん初住。闇証の禅師・誦文の法師の能く知る所に非ず。蓋し如来積劫の懃求したまえる所、道場の妙悟したまえる所、身子の三請する所、法譬の三説する所、正しく茲に在るに由るか」と。弘の五に云く、「四教の一十六門、乃至八教の一期の始終に遍せり。今皆開顕して束ねて一乗に入れ、遍く諸教を括りて一実に備えり。若し当分をいわば、尚偏教の教主の知る所に非ず。況や復世間暗証の者をや〇蓋し如来より下は称歎なり。十法既に是れ法花の所乗